

消防団とは

消防団は市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である消防団員は本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として、「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、消防防災活動を行っています。

消防団は、消火活動のみならず、地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助救出活動、避難誘導、災害防御活動など非常に重要な役割を果たしています。さらに、平常時においても、住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導等、地域に密着した活動を展開しており、地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。



消防団の特性

消防団は市町村の消防機関です。構成員である団員は、権限と責任を有する**非常勤特別職の地方公務員である一方、他に本業を持ちながら、自らの意思に基づく参加、すなわちボランティアとしての性格も併せ有しています。**

消防団は、大規模災害時をはじめとして、地域の安全確保のために大きな役割を果たしています。例えば、阪神・淡路大震災において、日頃から消防団を中心に行行政機関と住民による自主防災組織との緊密な連携があった淡路島の北淡町(当時)では、激震地であったにもかかわらず、被害は最小限に抑えられました。これは、消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階などにおいては、住民自らが主役となって防災活動を行うことの重要性を示しています。

特性1 ▶ 地域密着性

構成員である団員は、地域の住民であることが多く、地元の事情等に通じ地域に密着した存在

特性2 ▶ 要員動員力

団員数は、全国で80万4,877人(令和3年4月1日現在)と、常備職員(消防士)の約5倍の人員

特性3 ▶ 即時対応力

団員は、日々技術の向上に努め、教育訓練に励み、災害発生時には即時に対応できる能力を保有

消防団の活動

平常時の活動

- ① 防火指導・啓発活動・高齢者訪問
- ② 応急手当の普及活動
- ③ 広報活動

災害時の活動

- ① 消火活動 初期消火や消防隊員の後方支援
- ② 救助活動

消防団員の報酬

多くの市町村で年額報酬や災害活動または訓練に出動した際の報酬などが支給されます。また、以下のような待遇もあります。

公務災害補償

公務上の災害によって被った損害については公務災害補償制度に準じて補償されます。

退職報償金

消防団員が退職した場合、市町村から慰労金の性格として退職報償金が支給されます。

[お問い合わせ先]

消防団に関する詳しい情報はWEBで

検索



和牛消防団/
動画公開中



総務省消防庁
Fire and Disaster Management Agency

2022年、全人類に笑顔を捧ぐ

明日の笑顔は
君たちに託された。
消防団に参加せよ。



消防団員募集中

FDMA
住民とともに
総務省消防庁
Fire and Disaster Management Agency

一般向け



機能別団員・分団制度

より多くの方に参加いただくために、消防団には、機能別消防団員・分団という制度があります。それぞれの能力やメリットを活かしながら、特定の消防団活動や時間の許す範囲での活動ができます。

機能別消防団員

■火災予防・広報団員

予防団員として、住宅防火訪問・高齢者訪問や救命講習の実施を中心に活動したり、広報団員として、音楽隊などに入ったり、消防の諸行事や市主催のイベントなどで消防団をPRする活動を行っています。

みんなの力を合わせて
自らの地域は自ら守る /



消防訓練制度

消防団員の教育訓練は、各消防本部、消防署や消防団における教育訓練のほか、国においては消防大学校、都道府県等においては消防学校において実施されており、国、都道府県、市町村等がそれぞれ機能を分担しながら、相互に連携して実施されています。

消防団員に対する教育訓練の種類

消防学校における教育訓練の基準として、「消防学校の教育訓練の基準」が定められています。

この中で定められている教育訓練の種類には、消防団員に対する基礎教育(従来の普通教育)、専科教育、幹部教育及び特別教育があります。

① 基礎教育

消防団員として入団後、経験期間が短く、知識・技能の修得が必要な者を対象に行う基礎的な教育訓練をいい、基準上の教育時間は24時間とされています。

② 専科教育

現任の消防職員及び一定期間の活動経験を有する消防団員を対象に行う特定の分野に関する専門的な教育訓練をいいます。

③ 幹部教育

幹部及び幹部昇進予定者を対象に行う消防幹部として一般的に必要な教育訓練をいいます。

④ 特別教育

上記に掲げる以外の教育訓練で、特別の目的のために行うものをいいます。

職業:10代目農家 | 上原 修太さん | 川崎市多摩消防団

和牛・すゑひろがりずの
消防団員インタビュー



消防団に入ったきっかけは 何だったのでしょうか？

父や親戚、先輩が消防団員だったため、小さい頃から消防団の活動を見ていて、「いざ入る」という雰囲気の中、中学生くらいから自分も消防団に入るものだと思っており、入団しました。



小さい頃と今の消防団で 変わったことはありますか？

消防団の雰囲気が全然違いますね。父の時代の消防団はガチガチの縦社会で、毎月1日と15日の活動日は絶対参加、雰囲気はいつもピリピリしていました。今も締めるところは締めていますが、ダラダラはせずメリハリがついていて、先輩との関係もかなり温かさを感じる関係になっています。消防団活動も行ける日に参加することで問題ありません。



入団してから、実際に 災害現場に出動したことは ありますか？

3回あります。最初の出動が火災現場で、現場到着時、まさに炎上していました。右も左もわからない状態の中、消防活動を円滑に進めるため、野次馬の整理を含む交通整理を担当しました。臨機応変に動き回るのが大変でしたが、良い経験になりました。



みなさん消防団に
参加してもらうため
今後やっていきたいことは
何ですか？

自分がそうだったのですが、親や親類関係が入っているから伝統的に消防団に入団する人が多く、元々開かれた消防団活動訓練もなかったため活動を見る機会が中々ないので、もっと様々な人に興味を持ってもらうために消防団活動の見学を行っていきたいと思っています。



※感染症対策を行い、マスクは撮影時ののみ外しています。

消防団へ入団するには、「消防団オフィシャルウェブサイト」をご覧ください！

1 お近くの 消防団を探す

消防団

検索

2 消防団へ 問い合わせる

ご希望の消防団に電話・メールなど
でお問い合わせください。

3 あなたも 消防団員に！

案内に従い、入団手続きが完了すれば、晴れて「入団」となります。

消防団への入団手続について、詳しくはお問い合わせ先へご連絡いただき、消防団オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

裏面には、基本情報やお問い合わせ先などがあります。ぜひご覧ください。